

シリーズ⑥

PTAに対する想いを聞いちゃいました

「対話」するPTA組織を目指して
塩谷町立塩谷中学校校長 青木 均



本校は、今年度が創立20周年になり、11月16日（金）に記念式典と講演会を開催しました。この20周年記念事業を開催するに当たり、令和2年度PTA予算から浄財を蓄積し、当時のPTA役員の皆さんと記念事業実行委員会などの運営組織や講演会の講師などを話し合い少しずつ次年度に引き継いできました。

途中にはコロナ感染症拡大もあり、活動が制限されたり、生徒数減少に伴いPTA組織自体も改編作業を余儀なくされたりする中でPTA会長を中心とする執行部の方々と、書面や対面によりPTA会員の意見を聴きつつ、学校と家庭が協力し合う関係を構築しようと試みてきました。しかしながら一度中断された活動を再開するには、その形（組織）のままではなく、新しい生活様式を踏まえた形にする必要があります。つまり活動意欲も含めて、効率的かつ充実感のある内容に変えようとする試みです。

20周年記念式典はPTAの物心両面での協力が必要であり、「式典部」「記念誌部」「総務部」の3本柱で実行委員会を組織し、令和6年度のPTA専門部長や部員の方々に運営も協力してもらいました。

準備委員会では部長を中心に、「ここはどうする」など、積極的に話し合いが進められました。記念式典当日は役員の方々が楽しそうに運営され、その姿を見て他の会員も活動に参加してくれると有難いと思いました。

限られた時間の中で、子ども達のために、どのようにして活動を主体的に盛り上げていくか、模索してPTA活動の充実に取り組んでいます。



PTA会長 渡辺義隆 講師 植松努 校長 青木均 元PTA会長 松本光雄

「言葉の力」
高根沢町立阿久津小学校 PTA会長 渡邊 恭子



「おはようございます毎朝、校門で交わされる挨拶は、私にとって特別な瞬間です。初めは、ただ元気をもらいうため始めたこの習慣ですが、今ではその意味が大きくなりました。挨拶の「言葉」は、人と人を繋ぐ素敵な力を持つている魔法だと思っています。時には、言葉が相手を傷つけてしまうこともあります。それ以上に人を元気にしたり、勇気づけたり、信頼関係を築いていく力も秘めていると思います。

毎朝の挨拶を交わすことで、私たちの間には、小さな魔法がかかります。その瞬間に、互いの心が軽やかになり気持ち明るくなります。そして、少しずつ信頼関係が育まれていくのを感じます。この信頼が、子ども達の心の不安や悩みを話せる存在へとつながることを願っています。



元気な挨拶で1日のスタートを！

挨拶は、ただの言葉ではなく、心を繋ぐ架け橋だと思っています。引き続き、毎朝の挨拶を大切にし、子ども達と共に温かな時間を共有していきたいと考えています。

これからも、かわいい子ども達の弾けるような笑顔とほほえみ、子ども達の毎日の変化に気づき、その時々で学校と共有し、必要であれば対応も考え、子ども達がより良い学校生活を送ることが出来るように見守っていければと思います。